

平成28年度

園・学校管理職等の紹介

今年度も、新しい体制のもと、園・学校の新学期がスタートしています。各園・学校の管理職の紹介をいたします。

国東市では、各園・学校が教育目標を掲げ、学校・家庭・地域の三者が連携・協働しながら教育を進めていく、「地域総ぐるみの教育」目標協働達成の取組をめぐらせています。

新入園児・児童・生徒を迎え新たにスタートを切った、園・学校にこれまで以上のご支援・ご協力をお願いいたします。



幼稚園名	園長	副園長
竹田津幼稚園	河野 一也	大内山敬一
国見中央幼稚園	松成登美子	丹田 康彦
熊毛幼稚園	胡子 政孝	清水 裕子
富来幼稚園	國廣 精一	丸尾 修
安岐中央幼稚園	山元 公一	佐藤 直美
安岐幼稚園	糸永 敏明	福田千代子

小・中学校

学校名	校長	教頭	校区
竹田津小学校	河野 一也	大内山敬一	西方寺・竹田津・鬼籠・櫛海
伊美小学校	松成登美子	丹田 康彦	赤根・千灯・野田・中・伊美・櫛来
熊毛小学校	胡子 政孝	清水 裕子	岐部・小熊毛・大熊毛・向田
富来小学校	國廣 精一	丸尾 修	浜・来浦・若戸寺・深江・東堅来 富来浦・浜崎・富来・大恩寺
国東小学校	岩光 一郎	滝口 俊也	成仏・下成仏・見地・中田・横手・岩屋 赤松・北江・田深・川原・原・安国寺・鶴川
小原小学校	永井眞智子	奥 陽子	小原
旭日小学校	井手 俊郎	岩尾 一寿	次郎丸・綱井・重藤
武蔵東小学校	橋本 邦彦	山田 弘司	池の内・内田・古市・糸原・小城 三井寺・志和利・成吉
武蔵西小学校	伊藤 尊和	井上加奈江	手野・吉広・麻田・狭間・丸小野
安岐中央小学校	山元 公一	佐藤 直美	両子・富清・糸永・明治・朝来・矢川 山浦・掛樋・油留木・吉松・瀬戸田 成久・中国・大添・山口・下山口・西本
安岐小学校	糸永 敏明	福田千代子	馬場・下原・塩屋・向陽台・武蔵町向陽台
国見中学校	國司 和子	石丸 哲二	国見町内全域
国東中学校	本多 洋介	渡邊 昌教	国東町内全域
武蔵中学校	矢野 之英	清輔 康一	武蔵東小校区・武蔵西小校区
安岐中学校	豊田 崇	中根 文秋	安岐町内全域・武蔵町向陽台

校区について

※特例な事情により、指定された学校への就学が困難な児童・生徒については、国東市立小・中学校通学区の変更等に関する許可要件に基づき、就学校の変更が認められる場合があります。

◇申請手続き：国東市教育委員会学校教育課（☎0978-73-0066）
面談日程を調整します。詳細は国東市HPに記載しています。ご参照ください。

【問合先】 学校教育課 ☎0978-73-0066

こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.120

風習や習慣について考えてみましょう！

昨年の年末、「六曜」を掲載したカレンダーを製作、それを市民に配布しようとした佐伯市、杵築市、臼杵市、それに県と6市町村でつくる国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会のことからマスコミに取り上げられました。何が問題だったのでしょうか？マスコミには「六曜」について、次のような考え方が載っていました。

- ①六曜に従って行動することは、科学的な根拠に基づかない迷信・因習の一つとして考えている。（県人権・同和対策課）
- ②六曜が悪いわけではない。根拠のない風習や文化が差別を助長する恐れがある。行政としてその点は配慮している。（九重町）
- ③六曜にこだわる人は以前に比べると少なくなっているが、まだ大安などの吉日を好む人は多い。六曜を使うことが差別につながると思われる。逆に差別と意識してしまうことの方が、差別

を助長する気がする。（婚礼業界の関係者）

まず「六曜」とは何でしょうか？「先勝」「友引」「先負」「仏滅」「大安」「赤口」の六つを言います。このいくつかは聞いたことがあると思います。古く中国で時刻の吉凶占いで使われていたものが日本に伝わってきました。今も結婚式や葬儀の日程を決める時などにこの「六曜」が出てきませんか？企業などから貰うカレンダーによっては、「六曜」が掲載されているものもあります。

上記①②の傍線の「根拠がない」の理由は、「六曜」の配列の仕方が影響しているからでしょう。配列の仕方は大きく二つあります。ひとつめは1月1日を「先勝」とし、2日を「友引」、3日を「先負」というように、年間を通して順番に配列する方法。

ふたつめは、1月1日を「先勝」、2月1日を「友引」、3月1日を「先負」…として、1月の場合は2日「友引」、3日を「先負」…とし、月末で打ち切ります。そのため、同じ日なのに「大安」だったり、「仏滅」だったりすることがあります。

そのためか1872（明治5）年、

明治政府は「太陽暦」を用いることを決め、「六曜」を「妄誕無稽」に属し、人の知の発達を妨げる「妄誕」として「たらしめ」の意と断定しています。「日の吉凶」に関わる迷信を禁止したわけです。

しかし、150年経った今でも葬儀は「友引」、結婚は「仏滅」を避ける人が多いようです。「昔からのしきたりだから」という考え方は、「昔から忌み嫌われてきたから」という差別意識に通じるのかもしれない。

現在はほぼ解消したようですが、迷信・因習として葬儀時に「清めの塩」がありました。「塩」の作用に注目して始まったものでしょうが、「災い」や「穢れ」から「塩」の作用で「清め」て、自分は免れるという発想から生まれたのでしょう。「六曜」もこのことと同じ迷信としてなくすことができないのでしょうか。

（文責 安岐分室・本多）

2016身になる人権講座【身近な人権シリーズ】

日時	5月18日(水) 18:00~19:30
場所	アストくにさき マルチホール
内容	シリーズⅠ～Ⅲは『子どもの人権』に焦点を当て、子どもとの関わり方、子どもの心を元気にさせる大人の対応等について考えましょう。

第9回国東市隣保館まつり「こころの川柳」

課題《まつり》応募作品
あちいけどいっちょおどろかおまつりじゃ
宮森のかぐら火私のノスタルジー

池坊 松木隆子